

HP Quality Center

ソフトウェア・バージョン : 10.00

新機能

ドキュメント発行日 : 2009 年 1 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2009 年 1 月 (英語版)



利用条件

保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

サードパーティ Web サイト

HP は、補足情報の検索に役立つ外部サードパーティ Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。HP は、サイトの内容または利用の可否について、いかなる表明も保証も行いません。

著作権

© Copyright 2005 - 2009 Mercury Interactive (Israel) Ltd.

商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT® および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> を参照します。

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログイン・ページの [**New users - please register**] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは、次の場所にあります。

<http://support.openview.hp.com>

HP ソフトウェアのオンライン・サポートは、インタラクティブな技術サポート・ツールにアクセスするための効率的な手段を提供します。サポート・サイトを利用することで、次のようなことができるメリットがあります。

- 関心のある内容のナレッジ・ドキュメントの検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論の開始
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアは、HP Passport ユーザとしての登録およびサインインが必要です。また多くは、サポート契約も必要です。アクセス・レベルの詳細情報については、**http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp** を参照してください。

HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

新機能

この新機能ガイドでは Quality Center 10.00 で導入された機能や強化された機能の概要を説明します。Quality Center の使用法の詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

また、『ヘルプ』 > 『製品の機能紹介ムービー』から項目を選択すると、Quality Center のいくつかの機能のビデオ・デモンストレーションを見ることができます。

新機能は、次の項目で構成されています。

- ▶ インストールおよびアップグレード (6 ページ)
- ▶ クロス・プロジェクトのカスタマイズ (8 ページ)
- ▶ バージョン管理 (8 ページ)
- ▶ ライブラリの共有 (9 ページ)
- ▶ ベースライン (10 ページ)
- ▶ リスク・ベース品質管理 (10 ページ)
- ▶ Quality Center ダッシュボード・モジュール (11 ページ)
- ▶ テスト・リソース・モジュール (11 ページ)
- ▶ 依存関係 (12 ページ)
- ▶ ユーザに関する更新 (12 ページ)
- ▶ 管理に関する更新 (14 ページ)
- ▶ パフォーマンスの向上 (6 ページ)
- ▶ 利用可能な機能の変更 (16 ページ)
- ▶ APIに関する更新 (18 ページ)
- ▶ Business Process Testing (18 ページ)

インストールおよびアップグレード

Quality Center 10.00 のインストールおよびアップグレード処理が次のように更新されました。

新しい Quality Center のエディション

現在 Quality Center は 3 つの異なるエディションが利用可能です。Starter, Enterprise および Premier。利用可能な機能はエディションごとに異なります。

- ▶ **Quality Center Starter Edition** : 最大 5 人の同時使用ユーザによる小規模なリリースを管理するアプリケーション・チーム向けの既存の Quality Center エディション。
- ▶ **Quality Center Enterprise Edition** : 中規模から大規模なリリースを管理するアプリケーション・チーム向けの既存の Quality Center エディション。以前の TestDirector for Quality Center です。
- ▶ **Quality Center Premier Edition** : エンタープライズ・リリースを管理する、成熟し、卓越した組織のための新しい Quality Center エディション。

詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

サポートされる環境

Quality Center サーバおよびクライアント・マシンの、サポートされ、また推奨されるソフトウェアおよびハードウェアの構成については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

Quality Center は他の HP テスト・ツールとの統合を提供します。サポートされるバージョンを使用していることを確認するには、[アドイン] ページの **その他の Quality Center アドイン**・リンクをクリックしてください。

Quality Center 10.00 統合早見表を選択します。

パフォーマンスの向上

Quality Center のパフォーマンスは、特に WAN ネットワーク上で、大幅に向上しました。これは Quality Center サーバとクライアント間の HTTP トラフィックを圧縮したことが要因です。

データベース・ベスト・プラクティス

Quality Center をデータベース・サーバ上にデプロイする場合のベスト・プラクティスを確認するには、新しい『**HP Quality Center Database Best Practices Guide**』（英語版）を参照してください。このドキュメントは、Quality Center 文書ライブラリ（[ヘルプ] > [文書ライブラリ]）を選択）から利用できます。

プロジェクトのアップグレード

Quality Center の [サイト管理] に組み込みの検証機能および修復機能が含まれるようになりました。アップグレード・プロセスはより堅牢になり、統合、スキーマ、および環境に関連した問題を探し出し、修復することができるようになりました。

プロジェクトを以前のバージョンから最新バージョンの Quality Center にアップグレードする前に、プロジェクトを検証し、修復します。

- ▶ **[検証]** オプションはプロジェクト・データベース・スキーマの問題、データの破損、および修復が必要な設定を検出します。
- ▶ **[修復]** オプションはプロジェクトの検証中に検知された問題を修正します。

これらの新しい [サイト管理] オプションは Quality Center Checker ツールを置き換えます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

Quality Center で修正できないプロジェクト・データベース・スキーマおよびデータの問題を修復するには、新しい『**HP Quality Center アップグレードガイド**』を参照してください。このドキュメントはプロジェクトをアップグレードする前に、どのように問題を検知し、修復するかを説明しており、Quality Center 文書ライブラリ（[ヘルプ] > [文書ライブラリ]）を選択）から利用できます。

新しい要件モジュール・ライセンス

Quality Center 10.00 では要件モジュール・ライセンスを購入できます。これは既に利用可能な完全ライセンスおよび不具合モジュール・ライセンスに追加します。

クロス・プロジェクトのカスタマイズ

Quality Center Premier Edition : 新しいクロス・プロジェクトのカスタマイズ機能により、組織内の活動全体に渡ってポリシーおよび手続きを標準化することができるようになります。テンプレート・プロジェクトを作成、カスタマイズし、1つまたは複数のプロジェクトにリンクさせ、リンクしたプロジェクトにテンプレートのカスタマイズを適用します。組織のニーズが時間とともに変化するのに伴い、テンプレート・プロジェクトのカスタマイズを更新し、リンクされたプロジェクトにテンプレートのカスタマイズを再適用することができます。

クロス・プロジェクト・カスタマイズは、組織内でプロジェクトをまたいだ情報の共有にも役立ちます。たとえば、カスタマイズされた要件タイプとプロジェクト・リストの標準セットを作成することで、プロジェクト間で簡単にデータを共有できます。共有の詳細については、9 ページ「ライブラリの共有」を参照してください。

クロス・プロジェクト・カスタマイズの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

バージョン管理

Quality Center はバージョン管理が完全に統合されるようになりました。サード・パーティのバージョン管理システムを購入し、保守する必要はなくなりました。代わりに、Quality Center サイト管理で各プロジェクトごとにバージョン管理を有効にすることができます。

バージョン管理により、以前のバージョンのエンティティを保持しつつ、要件、テスト、コンポーネント、およびテスト・リソースを含む Quality Center エンティティの作成および管理が可能になります。前のバージョンのエンティティを表示して比較したり、前のバージョンを復元することができます。

詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

ライブラリの共有

Quality Center Premier Edition : ライブラリを作成することで、プロジェクトのエンティティを再利用したり、複数のプロジェクト間でエンティティを共有できるようになりました。ライブラリはプロジェクト内のエンティティおよびそれらの関係のセットを表します。ライブラリのエンティティには要件、テスト、コンポーネント、およびテスト・リソースを含むことができます。不具合を共有するには、下記の「不具合の共有」を参照してください。

ライブラリの作成後、次のことができます。

- ▶ **ライブラリのインポート** : ライブラリをインポートすることができます。ライブラリのインポートにより、同一プロジェクト内、または複数のプロジェクト間でエンティティの再利用が可能になります。ソース・ライブラリおよびインポートしたライブラリの両方でエンティティの開発と利用を続けることができます。
- ▶ **ライブラリの比較および同期** : 開発が進むに従い、関連する2つのライブラリを比較して変更を確認し、プロジェクトへの更新に対する決定を下すことができます。その後、ライブラリを同期できます。たとえば、インポートしたライブラリをソース・ライブラリに行われた変更で更新することができます。

ライブラリはライブラリ・モジュール内に作成します。詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

不具合の共有

Quality Center Premier Edition : 複数の Quality Center プロジェクトをまたいでの不具合の共有も可能です。HP Quality Center Synchronizer を使用して不具合の共有および同期を行います。詳細については、Quality Center アドイン・ページから利用できる『**HP Quality Center Synchronizer User's Guide**』（英語版）を参照してください。

ベースライン

開発の重要な段階で、プロジェクト内のエンティティのスナップショットを作成するベースライン機能が **Quality Center** に含まれるようになりました。ライブラリの作成後、ライブラリのベースラインを作成できます。ベースラインのエンティティには要件、テスト、コンポーネント、およびテスト・リソースを含めることができます。ベースラインにはトレーサビリティやカバレッジといった、ライブラリ内のエンティティ間の関係も含めることができます。

ベースラインを作成し、アプリケーション・ライフ・サイクル内の任意の重要なマイルストーンをマークすることができます。たとえば、ベースラインを使用してリリース要件を規定し、合意したコンテンツについて関係者の承認を得ることができます。その後、2つのベースラインを比較したり、ベースラインをプロジェクト内の現在のエンティティと比較したりすることができます。

ベースラインの作成後、テスト・セットをベースラインに固定できます。これにより、テスト・セットをベースラインに保存されているテストと関連付けます。ベースラインに固定されたテスト・セットを実行すると、**Quality Center** は指定したベースラインに保存されているバージョンのテストを実行します。

新しいライブラリ・モジュールでベースラインを作成、比較します。詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

ベースラインは、**Quality Center Starter Edition** では使用できません。

リスク・ベース品質管理

Quality Center リスク・ベース管理の機能が強化されました。以前は、要件のテスト・ポリシーを決定するには、**Quality Center** は要件のリスクをビジネス致命度と失敗確率の組み合わせで定義していました。これからは **Quality Center** はテスト・ポリシーを決定するための追加の要素として、機能の複雑性を追加します。この要素は、要件の実装の複雑性を示します。

リスク・ベース品質管理の機能に次の強化が追加されました。

- ▶ **[ビジネス上の危険性]** および **[失敗確率]** は要件モジュールの同じ **[リスク]** タブ内で評価されるようになりました。これらの要素のそれぞれの値が総合的なリスクの計算に使用されます。

- ▶ 一連の基準に値を割り当てて機能の複雑性を評価するために、[機能の複雑性] タブが追加されました。

詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

リスクベース品質管理は Quality Center Starter Edition では使用できません。

Quality Center ダッシュボード・モジュール

Quality Center に組み込みダッシュボード・モジュールが含まれるようになりました。これはレガシ・スタンドアロン・ダッシュボード・アプリケーションに取って代わるものです。

ダッシュボード・モジュールは Quality Center アナリシス・タイプである、グラフ、標準レポート、そして Excel レポートを作成、管理するためのフォルダ・ツリーから構成されます。さらに、ダッシュボード・モジュールはダッシュボード・ページを導入します。ダッシュボード・ページでは、同時に監視したいグラフをグループ化して、1つのビューで表示することができます。

Quality Center ダッシュボード・モジュールは要件、テスト計画、テストラボ、そして不具合モジュールの [アナリシス] メニューの機能を補完します。

Quality Center Premier Edition: グラフ作成時、複数のプロジェクトを含められるようになりました。これにより、異なるプロジェクトのデータを結合したり比較することができます。

詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト・リソース・モジュール

Quality Center はテストで使用するリソースを管理できるようになりました。たとえば、テストを Quality Center に保存する外部テスト・ツールを使用するとします。各テストは多くのテストに共通な共有設定ファイルを使用します。したがって、各テストごとにそれぞれファイルのコピーを保存するのではなく、構成ファイルを1か所で保守したいと考えます。

リソース・フォルダおよびリソースを含む階層テスト・リソース・ツリーを定義し、新しいテスト・リソース・モジュールでリソースを組織化します。ツリー内の各リソースに対して、リソース・ファイルのセットを選択し、Quality Center リポジトリへアップロードします。これらのファイルは1つまたは複数のテストで使用できます。

詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

依存関係

テスト、コンポーネント、およびテスト・リソースといったエンティティ間に存在する依存関係を表示できます。特定のエンティティに対して計画された変更の影響を分析する際、依存関係リンクが変更により影響を受ける他のエンティティを示します。依存関係は「**依存関係**」タブで表示できます。

詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

ユーザに関する更新

本項では、Quality Center 10.00 のユーザビリティの向上について説明します。詳細については、『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

パスワード・リセット

これまでは、ユーザが自分の Quality Center ログイン・パスワードを忘れた場合、サイト管理者が新しいパスワードを割り当てていました。これからは、ユーザは自分でパスワードをリセットし、新しいパスワードを作成できます。Quality Center ログイン画面の「**パスワードを忘れた場合**」リンクをクリックして行います。

複数レコードに関する更新

一度に複数のレコードのフィールド値を更新できるようになりました。このオプションは次の Quality Center モジュールから使用できます。要件、テスト計画(グリッドのみ)、および不具合。

テスト・パラメータ

Quality Center は手動テストのパラメータを、特定のテスト・デザイン・ステップの一部ではなく、テストのプロパティと見なすようになりました。これにより、手動テストのテスト・パラメータの管理がより簡単になり、複数のデザイン・ステップ内でのテスト・パラメータの再利用が可能になります。テスト・パラメータは新しい **[テストパラメータ]** タブで管理されます。

複数プロジェクトにわたるコピー

Quality Center はテスト、テスト・セット、またはテスト・リソースを複数プロジェクトにわたってコピーできるようになりました。コピーには呼び出されたテストおよびテスト・リソースも含まれます。以前のバージョンでは、呼び出されたテストのみコピー可能でした。

管理モジュール

Quality Center に管理モジュールが追加され、2つのサブ・モジュールが含まれます。

- ▶ リリース・モジュールは管理モジュールのサブ・モジュールになりました。
- ▶ 新しいライブラリ・モジュールは管理モジュールのサブ・モジュールです。共有の詳細については、9 ページ「ライブラリの共有」を参照してください。

管理モジュールは、**Quality Center Starter Edition** では使用できません。

管理に関する更新

本項では、Quality Center 10.00 の管理の向上について説明します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

サイト管理のログイン

サイト管理の URL は、

http:// < Quality Center サーバ名 > [: ポート]/qcbn/SiteAdmin.htm

になりました。

プロジェクト管理者権限

セキュリティ向上のため、プロジェクト管理者は電子メール・アドレスを含むプロジェクト・ユーザのユーザ詳細を変更できなくなりました。

プロジェクト拡張機能

これまでは [プロジェクト拡張機能] タブには Quality Center サーバにインストールされた拡張機能のバージョン番号が表示されていました。今回、選択したプロジェクトで有効になっている拡張機能のバージョンもタブに表示されるようになりました。

ライセンス

次の機能強化は [サイト管理] の [ライセンス] タブに含まれています。

- ▶ Quality Center モジュールごとに個別の有効期限を表示することができます。
- ▶ サーバにインストールされている Quality Center のエディションを表示できます。Quality Center のエディションの詳細については、6 ページ「新しい Quality Center のエディション」を参照してください。
- ▶ Quality Center のライセンス・キーをファイルにエクスポートすることができます。

サーバの設定

Quality Center およびサイト管理のためのデータベース最大接続数を 1 つだけ設定します。以前のバージョンの Quality Center では、データベースの最大接続数は Quality Center とサイト管理で別々に設定していました。

サイト設定

[**サイト設定**] タブに、次のパラメータが追加されました。

- ▶ ALLOW_UPDATE_USER_PROPERTIES_FROM_CUSTOMIZATION
- ▶ DISABLE_HTTP_COMPRESSION
- ▶ LIBRARY_BROKEN_LINKS_VERIFICATION_FUSE
- ▶ PASSWORD_RESET_DISABLE
- ▶ PASSWORD_RESET_ELAPSED_TIME
- ▶ PASSWORD_RESET_UNAVAILABLE_MESSAGE
- ▶ PASSWORD_RESET_VALID_PERIOD
- ▶ TEXT_SEARCH_TIMEOUT
- ▶ UPGRADE_EXCEPTION_FILE
- ▶ VERIFY_REPORT_FOLDER

次のパラメータは削除されました。

- ▶ CREATE_DB_REPOSITORY_VISIBILITY
- ▶ SELECT_FS_OVER_DB
- ▶ SHOW_REPOSITORY_OVER_DB
- ▶ VC

ワークフロー・イベント

次のモジュールにワークフロー・イベント・プロシージャが追加されました。

- ▶ ビジネス・コンポーネント
- ▶ ダッシュボード
- ▶ リリース (管理モジュールのサブ・モジュール)

- ▶ ライブラリ（管理モジュールのサブ・モジュール）
- ▶ 管理
- ▶ テスト・リソース

利用可能な機能の変更

次の機能は Quality Center 10.00 ではサポートされなくなりました。

プロジェクト・データのプロジェクト・データベースへの保存

新しいプロジェクトを作成する場合、データはアプリケーション・サーバのファイル・システムに保存しなければなりません。

プロジェクト・データをプロジェクト・データベースへ保存するオプションは利用できなくなりました。

Quality Center ダッシュボード

Quality Center に組み込みダッシュボード・モジュールが含まれるようになりました。詳細については、11 ページ「Quality Center ダッシュボード・モジュール」を参照してください。

新しい組み込みダッシュボード・モジュールは、既に利用できなくなっている、レガシ・スタンドアロン Quality Center ダッシュボードに置き換わるものです。

Quality Center Checker ツール

Quality Center に含まれる強化されたアップグレード機能により、アップグレードの前に問題を見つけ、修復することができるようになりました。詳細については、7 ページ「プロジェクトのアップグレード」を参照してください。

既に利用できない Quality Center Checker ツールは新しいアップグレード機能で置き換えられます。

バージョン管理統合

Quality Center に組み込みバージョン管理機能が含まれるようになりました。詳細については、8 ページ「バージョン管理」を参照してください。

Microsoft Visual SourceSafe や Rational ClearCase といったサード・パーティのバージョン管理ツールを統合させる必要がなくなりました。

注：以前のバージョンの Quality Center のプロジェクトでバージョン管理を使用していたものは、バージョン管理が有効である間は Quality Center 10.00 にアップグレードできません。以前のバージョンからのアップグレードに関する詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

Excel レポート定義の移行

複数の Quality Center プロジェクト間（同一の Quality Center サーバ上）で Excel レポートのコピーおよび貼り付けができるようになりました。

Excel レポート定義の XML ファイルへのエクスポート、また XML ファイルの Excel レポートとしてのインポートはできなくなりました。

APIに関する更新

この項では API に関する更新を説明します。

- ▶ 新しい『**HP Quality Center Custom Entity Relations Information Reference**』（英語版）に Quality Center エンティティ間の関係の管理に関する情報が提供されています。このオンライン・リファレンスは Quality Center COM ベース API の一部、および関係の管理に使用されるデータ・テーブルの一部をカバーしています。このリファレンスを使用してテスト・ツールを Quality Center に統合することができます。このドキュメントは [Quality Center ドキュメント・ライブラリ ([ヘルプ] > [ドキュメント・ライブラリ]) を選択) から利用できます。
- ▶ API リファレンスでは、最後のリリース以降の新しい項目は次の表示でマークされています。▼
- ▶ API ベース・アプリケーションのための Quality Center サイト管理クライアントへのログインが変更されました。URL は以下のようになります。
http:// <サーバ> [: ポート番号]/qcbn

Business Process Testing

Quality Center に導入されたいくつかの新機能（バージョン管理、ベースライン、および依存関係など）は、Business Process Testing エンティティでもサポートされます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）および『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

さらに、以下の Business Process Testing 機能が Quality Center 10.00 に導入、または強化されました。これらの機能の詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

フロー

フローは Business Process Testing のコンポーネント階層にレベルを追加する新しいタイプのテストです。フローは、特定のタスクを実行する、固定されたシーケンス内のビジネス・コンポーネントの集合で構成されます。複数のビジネス・プロセス・テストでフローを使用できます。フローまたはそのコンポーネントを変更すると、そのフローを含むすべてのビジネス・プロセス・テストに変更が反映されます。フローは次のような場合に特に有効です。たとえば、ほとんどのビジネス・プロセスが複数のステップで構成され、さらにステップが複数の画面で構成されるような場合。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

手動テストの変換

既存の手動テストを、ビジネス・コンポーネント・モジュールの手動コンポーネントに変換できるようになりました。新しい [宛先フォルダの選択] ダイアログ・ボックスで指定するか、または自動で、ビジネス・コンポーネント・モジュールのコンポーネント・ツリー内の変換済みテスト用の宛先フォルダを作成することができます。フォルダおよびそのサブフォルダ内のすべての手動テストを、同時に再帰的に変換することも可能です。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

パラメータ・プロモーション

コンポーネントやフローにパラメータがある場合、コンポーネントをフローまたはテストに追加、またはフローをテストに追加すると [パラメータ プロモーション] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスで、テストまたはフローの作成と同時に、コンポーネントまたはフロー・パラメータを次のレベルにプロモートするかどうかを選択できます。また、すべてのパラメータをプロモートするか、選択したパラメータのみにするかも選択できます。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

プロジェクトのカスタマイズ

ビジネス・コンポーネントのためのユーザ定義フィールドを作成することで **Quality Center** の **Business Process Testing** プロジェクトをカスタマイズできるようになりました。コンポーネントに追加されたユーザ定義フィールドは、ビジネス・コンポーネント・モジュール内のコンポーネントの [詳細] タブに表示されます。

ワークフロー・スクリプトを作成して、**Business Process Testing** ユーザが実行するアクションのカスタマイズも可能です。

詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

他のプロジェクトへのコピー

コンポーネント、ビジネス・プロセス・テスト、およびフローを1つのプロジェクトから他のプロジェクトへコピーすることができます。コンポーネントに関連するリソースがある場合、またはテストやフローが他のエンティティに依存している場合、Quality Center はさまざまな手段でそれらをコピーすることができます。

- ▶ コンポーネントの場合
 - ▶ コンポーネントおよびコンポーネント・フォルダをターゲット・プロジェクトへコピーし、既存のリソースへ同じ名前に関連付けます。
 - ▶ コンポーネントおよびコンポーネント・フォルダとそれらに関連付けられたリソースをターゲット・プロジェクトへコピーします。ターゲット・プロジェクト内で名前が重複したリソースは名前が変更されます。
 - ▶ コンポーネントまたはコンポーネント・フォルダを、関連付けられたリソースはコピーせず、ターゲット・プロジェクトにコピーします。リソースへの関連付けは削除されます。
- ▶ ビジネス・プロセス・テストおよびフローの場合
 - ▶ テストおよびフローをコピーし、ターゲット・プロジェクト内の既存の関連するエンティティとリンクさせます。ターゲット・プロジェクトに関連するエンティティが存在しない場合、Quality Center はそれをターゲット・プロジェクトにコピーします。
 - ▶ テストおよびフローを関連するエンティティと共に、ターゲット・プロジェクトにコピーします。
 - ▶ テストおよびフローを、関連付けられたエンティティはコピーせず、ターゲット・プロジェクトにコピーします。

詳細については、『**HP Business Process Testing User’s Guide**』（英語版）を参照してください。

【依存関係】 タブ

ビジネス・コンポーネントの [使用対象] タブは [依存関係] タブに置き換わり、コンポーネント、テスト、テスト・リソース、およびアプリケーション領域といったエンティティ間に存在する依存関係を表示します。以前は HP QuickTest Professional からしか表示できなかった、関数ライブラリのようなアプリケーション領域リソースをこのタブに表示することができます。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

BPT リソース・フォルダ

QuickTest 自動コンポーネントを最初に作成した時（または QuickTest が Quality Center プロジェクトに最初に接続した時）に自動的に作成される BPT リソース・フォルダは、テスト計画モジュールではなく、新しいテスト・リソース・モジュールに作成されるようになりました。Quality Center 10.00 へのアップグレード時、既にテスト計画モジュール内に存在する BPT リソース・フォルダは QuickTest Asset Upgrade Tool for Quality Center によりテスト・リソース・モジュールへ移動されます。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

[履歴] タブ

ビジネス・プロセス・テスト、フロー、およびコンポーネントの新しい [履歴] タブに、Quality Center の [プロジェクトのカスタマイズ] で指定できるさまざまなフィールドに加えられた変更の、監査ログを表示することができます。履歴情報には、変更の日時、変更を行ったユーザ名、およびフィールドの過去と新規の値が含まれます。ベースラインとバージョンを表示し、比較を行うこともできます。ビジネス・コンポーネント・モジュールでは、[履歴] タブはコンポーネント・ツリー・ビュー、コンポーネント・グリッド・ビューの両方から利用可能です。

詳細については、『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）を参照してください。

動的日付

フローおよび実行時間パラメータで、動的日付がサポートされるようになりました。動的日付は、現在の日付からの相対時間を表す日付文字列から構成されます。日付文字列は期間の加算や減算によりカスタマイズが可能です。自動、または手動でテストまたはフローの実行時、動的日付は実際の日付に変更されます。さらに、テストやフローの終了時、[最後の実行結果] に表示される実行時パラメータには、動的な日付の値ではなく実行時に使用された実際の日付が表示されます。この機能により、日付の変更のようなささいな理由で更新しなくてもよいテスト・アセットを作成することができます。

詳細については、『HP Business Process Testing User’s Guide』（英語版）を参照してください。

クロス・フィルタ

ビジネス・プロセス・テスト、フロー、およびコンポーネントに対してフィルタを定義する際、関連する項目に対して詳細な第二レベルのフィルタを提供する **［クロス・フィルタ］** を含めることができるようになりました。ビジネス・コンポーネント・モジュールのコンポーネントに対して、テスト計画モジュール内のフィールドへのクロス・フィルタを含めることができます。テスト計画では、ビジネス・コンポーネント・モジュール内のフィールドに対するクロス・フィルタを含めることができます。

詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

メールの送信

テストに対してと同じように、コンポーネントに関する電子メールを他のユーザに送信できるようになりました。コンポーネントのデザイン・ステップ、履歴、および添付スナップショットを電子メールに含めることができます。

詳細については、『HP Business Process Testing User’s Guide』（英語版）を参照してください。